

1 学習に取り組んでいる主な分野

☐ 生物多様性	☐ 海洋	☐ 防災・減災	☐ 気候変動
☐ エネルギー	☐ 環境	☐ 文化多様性	☐ 世界遺産・文化財
☐ 国際理解	☐ 平和	☒ 人権	☐ ジェンダー平等
☒ 福祉	☐ 生産と消費	☐ その他（ ）	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は、「ひまわりのようにあかるく、たのしく、げんきよく」を学校理念とし、すべての児童生徒が質の高い教育の恩恵を享受できるように、持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びに取り込まれるようにE S Dを推進している。ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、共生社会実現のために、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解するとともに、共に助け合い支え合って生きていく力を育成することを目標としている。

具体的には、持続可能な社会の創り手に必要な「コミュニケーションを行う力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」を育むことができるように、①国内学校間交流、②市内学校間交流、③居住地校交流に係わる学習を中心に行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○ 国内学校(特別支援学校)間交流

国内学校間交流では、同じユネスコスクール加盟校である新潟県見附市立見附特別支援学校と、平成24年度から交流を続けている。

今年度は、1学期に小学部、2学期には中学部、3学期には高等部が作品の交流を行った。それぞれの学校(学部)の紹介と、児童生徒が作成した作品を交流した。



○ 市内学校間交流

小学部の交流は市内のユネスコスクール加盟校、天の原小学校と「七夕交流」「なかよし交流」を、中学部は同じく市内のユネスコスクール加盟校、宮原中学校と「七夕交流」「クリスマス会交流」を行った。高等部は、有明高等工業専門学校と「音楽交流」を行った。

本校の児童生徒にとって、人と関わる大切な機会となり、対人関係をつくる経験を重ねるとともに、社会性を養い、好ましい人間関係を営む場となった。交流校の児童生徒にとっても障がいのある子どもたちへの理解と認識を深めるとともに、共生社会の実現に向けて、自らの生き方に気付く貴重な機会となっている。



○ 居住地校交流

居住地校交流では、児童生徒が居住する小中学校と交流を行った。学級活動（学級遊び等）や体育科、等で交流を深めた。

本校の児童生徒にとっては、地域社会の中で積極的に活動し、地域の同世代の子どもたちとの交流等を通して、地域での生活の基盤を形成することができた。また、居住地校の児童生徒にとっては、地域社会の中で、共に助け合い支え合って生きていくことの大切さを学んだり、思いやりの心を育てたりすることができた。



3 今後の活動計画

E S Dの実践を通して、共生社会実現のために、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し共に助け合い、支え合って生きていく力の育成を目標とする。

そのために、交流及び共同学習を中心として、市内学校間交流、国内学校間交流、居住地校交流の学校間交流とともに、地域の方々とも積極的に交流を行っていく。

- ・小学部 七夕交流 なかよし交流 遊ぼう交流 見附特別支援学校との作品交流
学習発表会 等
- ・中学部 七夕交流 クリスマス交流 わくわく交流 見附特別支援学校との作品交流
学習発表会等
- ・高等部 有明高専音楽交流 有明高専作業交流 見附特別支援学校との作品交流
学習発表会 作業学習作品販売 等